

生理機能検査 教育プログラム — 独り立ちするまでの歩み

生理機能検査は技術職であり、心電図、肺機能、超音波、脳波、筋電図など各領域において、独り立ちするまでの教育が不可欠です。しかし、研修期間や目標検査件数、段階的な技術・知識の習得方法、独り立ち後の制度管理は施設ごとに異なり、標準化された指針や参考となる文献は多くありません。日々の業務をこなしながら教育を担う現場では、「いつ」「何を」「どこまでできれば独り立ちとするのか」に悩みつつ、手探りで指導にあたっている方も多いのではないのでしょうか。

本特集では、大規模病院、専門病院、市中規模病院、健診センターまで幅広い施設における実践的な教育プログラムや工夫、評価方法をご紹介します。各施設の取り組みが、今後の人材育成を考える一助となれば幸いです。

藤崎 純

(東邦大学医療センター大橋病院臨床生理機能検査部)